



中村俊定文庫
文庫 18
441



明和五戊子春

篠聖正

羽米澤

素涼坊
巢阜坊 編



松沼行



引きく松方さんよ録のあ 山崎坊

はつらひとて底連とてくまふふくく首をさのくはと
ゆくせくおより定ふふくくくくくく

字はとてあや湯と活まんとは五月とて先礼七日
あゆとあゆりんハハのまよまこれ塚下くゆり
いあ所を甲国のまあ破より山衣あ山能亭と坊り
きふよりいあはすあふはひりひりあふあふあふ
りてえとてあ湯のあまといとてあまあまあま
あめあまあまのあまあまあまあまあまあまあま

る凡の住れ海しつらと感一

あは後海しつら月あは船 山岸

とあは海しつら海しつら 山岸

室戸川のさくら大石田の品物よき
とあは海しつら海しつらと感一

海しつら海しつら海しつら 山岸

船中の歌

舟曳の舟しつら海しつら 山岸

下海しつら海しつら海しつら 山岸

海しつら海しつら 山岸

小船しつら海しつら海しつら 山岸

海しつら海しつら海しつら 山岸

海しつら海しつら海しつら 山岸

海しつら海しつら海しつら 山岸

海しつら海しつら海しつら 山岸

くわふとくうりる北陸新 年

ちくくくくくくくくくくく 坊

くくくくくくくくくくく 涼

かくくくくくくくくくく 年

くくくくくくくくくくく 坊

くくくくくくくくくくく 涼

くくくくくくくくくくく 年

くくくくくくくくくくく 坊

くくくくくくくくくくく 涼

くくくくくくくくくくく 年

くくくくくくくくくくく 坊

くくくくくくくくくくく 涼

くくくくくくくくくくく 年

は一新の酒田の徳島く船をくだすこの程の
はくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
目のまをくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
まをくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
洋く至くくく

信身を慕ふてくばるる方

金部

果年

汝越の里にる金何素々か
お付く一 祖傳のしる書
と信と信く信守と

象酒

象酒のる方 西流、合新のよ

夕つゝぬちの何一
乃の中一

ゆい酒や 候、流、心、流、の、年

腰、其、の、夕、と、り、し、る、年、一、り、流、く、持、
お、り、し、る、年、一、り、流、く、持

腰、其、の、夕、と、り、し、る、年、一、り、流、く、持

武隆、芭蕉、の、松、青

年

三、章、一、と、し、し、流、身、の、持、物、一、幅、一、
ち、好、一、流、身、の、持、物、一、幅、一、
流、身、の、持、物、一、幅、一、
流、身、の、持、物、一、幅、一、

三

こころのつらさをいふは
いかにしるべし

雲のうらみよふあはれは
いかにしるべし

中を北清のうらみよふあはれは
いかにしるべし
山脈のうらみよふあはれは
いかにしるべし
日ほかりとてあはれよふあはれ
いかにしるべし
長月のうらみよふあはれは
いかにしるべし
あはれよふあはれよふあはれ
いかにしるべし
あはれよふあはれよふあはれ
いかにしるべし

あはれよふあはれよふあはれ
いかにしるべし

こころのつらさをいふは
いかにしるべし
あはれよふあはれよふあはれ
いかにしるべし
あはれよふあはれよふあはれ
いかにしるべし
あはれよふあはれよふあはれ
いかにしるべし

題

書翰の意を重く非行回の折うを
松崎解深しと志あるとす小年深
素深の葉早れる所情もその枝と昔
せしれりるる小年の深しり少
致系道遠の句くはおもふはるる

我々と浦山一とをかこころをあり
ふれを此年終のふれとふらん
ふれとふれとふれとふれとふれと
梓河の法法よおよむ

陽亭



素淨坊 兔川



榮年坊 凡多



京寺所通三五八下取抄至治席梓

